

## 専門基礎分野

### 【科目構成とねらい】

専門基礎分野は、看護を行う上で基盤となるものである。生活者としての人間を理解するために、自己を含めた人間の理解と、その人間の生活と健康を理解する内容とした。からだの構造や機能、それが障害された状態の変化に関する観察力や判断力を養い、看護実践につなげられるようにする。

看護を学ぶ基礎として一貫性を持たせるように、【人間の理解】【人間と健康】【人間と生活】の3領域で科目を構成する。

【人間の理解】では、生活者である人間の日常生活行動そのものの仕組みを理解し、援助を行う上での根拠につながるように、人体の構造と機能の科目に「形態機能学Ⅰ～Ⅴ」「生化学」を配置した。

【人間と健康】では、人間の健康が障害された状態と回復過程を理解し、看護実践の基盤となる臨床判断能力の基礎と医療の果たす役割を学ぶ科目として、「疾病の発生と病理的变化」「感染症と微生物」「疾病と治療Ⅰ～Ⅵ」「薬理学」「食事療法とリハビリテーション」「これからの医療」「公衆衛生」を配置した。

【人間と生活】では、人びとがその人らしく社会の中で生活するために必要な保健・医療・福祉に関する基本概念や制度、現状を学ぶ科目として、「社会保障と社会福祉」「医療と倫理」「医療と法律」「医療と経済」を配置した。

### 【目的】

人間の“生きる”を支える人体の構造と機能及び障害された時の影響を学び、対象に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。また、社会の変化や様々なニーズに柔軟に対応するための、保健・医療・福祉に関する基礎的能力を養う。

### 【目標】

1. 人間の生命活動と日常生活行動を支える人体の構造と機能を理解する。
2. 人体の構造や機能が障害された時の反応と回復過程を理解し、その人らしく生きることへの影響を理解する。
3. 専門職業人としての臨床判断能力を習得するための基礎を理解する。
4. 保健・医療・福祉に関する基本的概念、制度、現代における課題等を学び、医療チームの一員としての連携・協働について理解する。
5. 社会の変化や医療等の動向に関心を持ち、より良い看護を考えるための基礎的知識を習得する。

【構成および計画】

<講義>

領域	科目	単位数	履修時期		
			1年	2年	3年
人間の理解	形態機能学Ⅰ（日常生活行動と生物学的生命）	1	○		
	形態機能学Ⅱ（生命活動と免疫機構）	1	○		
	形態機能学Ⅲ（日常生活行動の構造と機能1）	1	○		
	形態機能学Ⅳ（日常生活行動の構造と機能2）	1	○		
	形態機能学Ⅴ（日常生活行動と生理的機能）	1	○		
	生化学	1	○		
人間と健康	疾病の発生と病理的变化	1	○		
	感染症と微生物	1	○		
	疾病と治療Ⅰ （疾病の診断過程と検査、回復を促進する治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅱ （呼吸器・循環器・腎泌尿器の疾病と治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅲ （運動器・内分泌代謝・血液リンパ器の疾病と治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅳ （脳神経・消化器の疾病と治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅴ （自己免疫・精神・小児特有の疾病と治療）	1		○	
	疾病と治療Ⅵ （感覚器、女性生殖器、乳房、周産期の異常時の疾病と治療）	1		○	
	薬理学	1	○		
	食事療法とリハビリテーション	1		○	
	これからの医療	1			○
	公衆衛生	1			○
	人間と生活	社会保障と社会福祉	1		○
医療と倫理		1			○
医療と法律		1			○
医療と経済		1			○
	計	22	13	4	5

## 授業計画

科目名	形態機能学 I		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 形態機能学を学ぶ意義を理解する。 2. 身体の構造と機能及び恒常性維持の必要性とメカニズムの基礎を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	形態機能学とは 看護実践と形態 機能学	看護モデルでの形態機能学の枠組み－医学モデル との違い－ 形態機能学を看護師が学ぶ意義 形態機能学を学んで身につけてほしい力	講義	専任教員*		
第 2 回	身体の構造と機 能の基礎	からだの基礎知識 解剖学的用語 ホメオスタシス (恒常性)	講義	外部講師*		
第 3 回		フィードバック機構	講義	外部講師*		
第 4 回		細胞と組織 細胞の構造 細胞膜の構造と機能 細胞の増殖と染色体	講義	外部講師*		
第 5 回		恒常性維持機能 内部環境の恒常性 体液とホメオスタシス 血漿の PH・酸塩基平衡	講義	外部講師*		
第 6 回	恒常性維持機能	物質の運搬 血液の組成と機能	講義	外部講師*		
第 7 回		赤血球 白血球 血小板	講義	外部講師*		
第 8 回		血漿タンパクと赤血球沈降速度 血球の凝固と繊維素溶解 血液型	講義	外部講師*		
第 9 回		血管・リンパ管 の形態と機能	血管の構造 肺循環の血管 全身の動脈	講義	専任教員*	
第 10 回	流通の原動力	全身の静脈 リンパ管の構造 リンパの循環	講義	専任教員*		
第 11 回		心臓の構造 心臓の血管と神経	講義	専任教員*		
第 12 回	心臓の拍出機能 と心電図	心臓の興奮と伝播 心臓の自動性と歩調取り 興奮の伝播 心電図	講義	専任教員*		
第 13 回		心拍出量と血圧 心周期 心音・心雑音	講義	専任教員*		
第 14 回	血液循環の調節	血圧 血液の循環 血液・血液量の調節	講義	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			

テキスト 参考図書	看護形態機能学 生活行動から見るからだ 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① あたらしい人体解剖学アトラス	評価 方法	筆記 100 点
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体のしくみ 基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎		

## 授業計画

科目名	形態機能学Ⅱ		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 恒常性を維持するための脳神経系・内分泌系の構造と機能及び生体の防御機構を理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	神経性調節	自律神経による調節 自律神経の構造と機能 神経伝達物質と受容体	講義	外部講師*		
第 2 回		神経系の構造と機能 神経細胞と支持細胞 ニューロンでの興奮の伝導 シナプスでの興奮の伝導 神経系の構造 中枢神経 末梢神経	講義	外部講師*		
第 3 回		脊髄の構造と機能 脳の構造と機能	講義	外部講師*		
第 4 回		脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能 脳の高次機能	講義	外部講師*		
第 5 回		運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路	講義	外部講師*		
第 6 回	液性調節	内分泌系による調節 ホルモンの作用機序 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義	外部講師*		
第 7 回		内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節	講義	外部講師*		
第 8 回		内分泌系による調節 恒常性維持のためのホルモンの働き 体液量の調節 代謝速度の調節 蛋白合成の促進	講義	外部講師*		
第 9 回		内分泌系による調節 恒常性維持のためのホルモンの働き 血糖の調節 血中ナトリウム・カリウムの調節 血中カルシウムの調節	講義	外部講師*		
第 10 回		生体防御機構	非特異的生体防御機構：自然免疫機構 皮膚・粘膜の構造と防御機構 食細胞とサイトカイン	講義	外部講師*	
第 11 回	生体防御の関連臓器 胸腺・脾臓・リンパ組織		講義	外部講師*		
第 12 回	特異的生体防御機構：獲得免疫機構 免疫系の細胞 抗原と抗体 補体		講義	外部講師*		
第 13 回	特異的生体防御機構：獲得免疫機構 液性免疫と細胞性免疫 アレルギー反応		講義	外部講師*		
第 14 回	特異的生体防御機構：獲得免疫機構 血液型 組織適合抗原 (HLA) 体温調節 体温のなりたち		講義	外部講師*		

		核心温度と外殻温度 体温調節 熱放散と熱産生 体温調節中枢		
第 15 回	評価		講義	外部講師*
テキスト 参考図書	看護形態機能学（日本看護協会出版会） 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能 （医学書院）		評価 方法	筆記 100 点
備考				

## 授業計画

科目名	形態機能学Ⅲ		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 人間にとって「動く」「息をする」「話す・聞く・見る」「お風呂に入る」「眠る」ことに関わる身体の構造と機能を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	日常生活行動 「動く」	「動く」が人の日常生活上にもたらす意味 日常生活の基盤である「動く」とは 「動く」が人間の日常生活行動に与える影響	講義	専任教員*		
第 2 回		「動く」ために必要な骨・関節・筋肉の構造と働き 骨の構造と機能 関節の形態と機能 骨格筋の構造と機能 協力筋と拮抗筋	講義	外部講師*		
第 3 回		神経から筋への指令と筋の収縮 筋収縮のメカニズム 骨格筋における筋の興奮収縮	講義	外部講師*		
第 4 回		大脳皮質の運動野の構成 意図的でない運動—反射 意図的な運動—随意運動	講義	外部講師*		
第 5 回		「動く」の基本となる姿勢と体位 基本姿勢と体位 「立つ」ために必要な骨と筋 日常生活行動に関連する体の動き 関節の運動 「歩く」ために必要な骨と筋	講義	専任教員*		
第 6 回		日常生活での基本的な体の動き 「つまむ」ために必要な骨と筋 「表情をつくる」ために必要な骨と筋	講義	専任教員*		
第 7 回	日常生活行動 「息をする」	「息をする」意味 「息を吸う」「息を吐く」ための器官の構造 呼吸器の各器官の構造	講義	専任教員*		
第 8 回		呼吸器の機能 気道の機能 肺の機能 呼吸運動 呼吸のメカニズム 呼吸筋	講義	専任教員*		
第 9 回		呼吸運動の神経支配 排気量（呼吸気量）	講義	専任教員*		
第 10 回		ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流 呼吸器系の病態生理	講義	専任教員*		
第 11 回	日常生活行動 「お風呂に入る」	皮膚の構造と機能 お風呂に入る効果 温熱効果、皮膚の温点・冷点	講義	専任教員*		
第 12 回	日常生活行動 「見る」	見るための器官の構造 視覚 視野と視覚伝導路 眼球に関する反射 見ることの障害が日常生活に及ぼす影響	講義	専任教員*		

第 13 回	日常生活行動 「聞く・話す」	聞く・話すための器官の構造 2 間隔伝導路 感覚と平衡のしくみ 話すための器官の構造 話すための脳の仕組み 「見る・聞く・話す」の障害と生活への影響	講義	専任教員*
第 14 回	日常生活行動 「眠る」	睡眠のメカニズム 睡眠中の生体の変化 睡眠に影響を及ぼす因子	講義	専任教員*
第 15 回	評価		試験	
テキスト 参考図書	看護形態機能学 生活行動から見るからだ 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① あたらしい人体解剖学アトラス		評価 方法	筆記 100 点
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体のしくみ 基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎			



## 授業計画

科目名	形態機能学IV		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 人間にとって「食べる」「トイレに行く」ことに関わる身体の構造と機能を理解する。 2. 人間の性や子孫を増やすための構造と機能を理解する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	日常生活行動 「食べる」	「食べる」意義 「食べる」日常生活行動のプロセス 「食べる」にかかわる構造と機能 食欲 食行動	講義	専任教員*			
第 2 回		咀嚼し味わう 飲み込む(嚥下) 食道の構造と機能	講義	専任教員*			
第 3 回		消化と吸収 消化液の作用、消化腺と酵素	講義	専任教員*			
第 4 回		消化管の構造と機能 上部消化管の構造と機能 小腸の構造と機能	講義	外部講師*			
第 5 回		膵臓の構造と機能 ホルモンの分泌と調整 9 胆嚢の構造と機能	講義	外部講師*			
第 6 回		肝臓の構造と機能 門脈と組織構造 代謝、解毒、排泄、胆汁産生・貯蔵	講義	外部講師*			
第 7 回	日常生活行動 「トイレに行く」	「トイレに行く」意義 「トイレに行く」日常生活行動のプロセス	講義	専任教員*			
第 8 回		排尿する 尿意 尿路 畜尿と排尿	講義	専任教員*			
第 9 回		尿生成 腎臓の構造と機能 尿生成のメカニズム 糸球体濾過と再吸収 尿細管の構造と機能	講義	外部講師*			
第 10 回		体液の調整 R-A-A 系 クリアランスと糸球体濾過量 水分出納 酸塩基平衡	講義	外部講師*			
第 11 回		排便する 大腸の構造と機能 便の生成 便意と排便	講義	専任教員*			
第 12 回		性のしくみ	人間の性を決定する仕組み 遺伝子による男と女 ホルモンによる男と女	講義	専任教員*		
第 13 回			男性生殖器の構造と機能 女性生殖器の構造と機能	講義	専任教員*		

第 14 回		受精と胎児の発生	講義	専任教員*
第 15 回	評価		試験	
テキスト 参考図書	看護形態機能学 生活行動から見るからだ 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① あたらしい人体解剖学アトラス		評価 方法	筆記 100 点
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体の仕組み 基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎			

## 授業計画

科目名	形態機能学Ⅴ（日常生活行動と生理的機能）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 生理学的指標および身体各部の測定をとおして、日常生活行動に関する機能の変化とその調整機能を理解する。 2. 解剖見学により人体の主要な臓器の構造を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	日常生活行動に関する身体・生理機能	日常生活行動と身体生理機能の関連性について 解剖見学、事前学習課題、演習の進め方について		講義	専任教員*	
第 2 回	主要臓器の観察 主要臓器の観察	解剖見学 主要な臓器の構造、体の中での位置関係		見学	外部講師*	
第 3 回		解剖見学 主要な臓器の構造、体の中での位置関係		見学	外部講師*	
第 4 回	日常生活行動に関する身体・生理機能の実際	演習 1 回目 息をする、恒常性維持と流通機構、見る・聞く 食べる、トイレに行く、動く		演習	専任教員*	
第 5 回		演習 2 回目 息をする、恒常性維持と流通機構、見る・聞く 食べる、トイレに行く、動く		演習	専任教員*	
第 6 回	日常生活行動に関する身体・生理機能の考察	グループワーク① 第 1 回目 演習結果のアセスメント		演習	専任教員*	
第 7 回		グループワーク② 第 2 回目 演習結果のアセスメント		演習	専任教員*	
第 8 回	日常生活行動に関する身体・生理機能の実際	演習 3 回目 息をする、恒常性維持と流通機構、見る・聞く 食べる、トイレに行く、動く		演習	専任教員*	
第 9 回		演習 4 回目 息をする、恒常性維持と流通機構、見る・聞く 食べる、トイレに行く、動く		演習	専任教員*	
第 10 回	日常生活行動に関する身体・生理機能の考察	グループワーク③ 第 3 回目 演習結果のアセスメント		演習	専任教員*	
第 11 回		グループワーク④ 第 4 回目 演習結果のアセスメント		演習	専任教員*	
第 12 回		グループワーク⑤ 演習結果のアセスメントとまとめ、発表準備		演習	専任教員*	
第 13 回		グループワーク⑥ 演習結果のアセスメントとまとめ、発表準備		演習	専任教員*	
第 14 回	日常生活行動に関する身体・生理機能	発表			専任教員*	
第 15 回		まとめ			専任教員*	
テキスト 参考図書	看護形態機能学（日本看護協会出版会） 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能（医学書院）			評価 方法	レポート 100 点	
備考						

## 授業計画

科目名	生化学		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	生体内の代謝のしくみ、生命の設計図である遺伝を学ぶ。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	生命現象を科学的側面から理解するための基礎知識	生化学とは 細胞の構造と機能 代謝と生体のエネルギー		講義	外部講師	
第 2 回	糖質の代謝	糖質の構造と機能		講義	外部講師	
第 3 回		糖質の代謝		講義	外部講師	
第 4 回	脂質の代謝	脂質の構造と機能		講義	外部講師	
第 5 回		脂質の代謝①		講義	外部講師	
第 6 回		脂質の代謝②		講義	外部講師	
第 7 回	タンパク質の代謝	タンパク質の構造と機能		講義	外部講師	
第 8 回		タンパク質の代謝①		講義	外部講師	
第 9 回		タンパク質の代謝②		講義	外部講師	
第 10 回	酵素の役割と反応	酵素の役割		講義	外部講師	
第 11 回		酵素の反応様式		講義	外部講師	
第 12 回	ビタミンの役割と特徴	ビタミンの種類と作用		講義	外部講師	
第 13 回	遺伝情報	タンパク質の合成と遺伝 遺伝のしくみと遺伝子の異常		講義	外部講師	
第 14 回		核酸代謝		講義	外部講師	
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポート等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	疾病の発生と病理的变化		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	疾病の原因と人体にもたらす変化を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	疾病の概念	疾病の成り立ち 疾病の概念 疾病を引き起こす内的・外的要因	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回	細胞・組織の障 害と修復	細胞の損傷と適応	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		組織の修復と創傷治癒	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回	組織の構造・機 能と病変	循環障害	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		炎症と免疫	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		移植と再生医療	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		代謝障害	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		腫瘍	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回	変化に影響する 個体の条件	老化	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		遺伝的多様性と疾病	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	生命の危機	救急患者の特性 ショック状態の把握と治療	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		呼吸不全の状態の把握と治療 循環不全の状態の把握と治療 心肺蘇生法・救急処置	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		病態の把握と治療・処置 ・DIC MOF ・火傷・熱傷	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回	人間の死	死の定義 脳死と心臓死	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	感染症と微生物		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 病原微生物が人体に及ぼす影響と生体防御機構、感染予防を理解する。 2. 感染症の特徴や臨床症状を理解し、その診断、治療を学ぶ。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	感染症	感染症の変遷 感染症法の対象疾患とその分類 ・ 1～5 類感染症・新感染症・指定感染症	講義	外部講師		
第 2 回		新興感染 ・ エボラ出血熱・AIDS・SARS・MARS ・ 新型インフルエンザ・COVID-19 など	講義	外部講師		
第 3 回		再興感染症 ・ 結核・ペスト・ジフテリア など	講義	外部講師		
第 4 回	感染と防御	感染の成立 感染に対する生体防御機構 ・ 自然免疫・獲得免疫・粘膜免疫	講義	外部講師		
第 5 回		感染の徴候と症状 感染源・感染経路から見た感染症 ・ 経口感染・経気道感染・接触感染 ・ 経皮感染・母児感染	講義	外部講師		
第 6 回		感染症の治療 *薬物耐性含む	講義	外部講師		
第 7 回	病原微生物の特 徴と診断・治療	病原細菌の特徴と診断・治療① ・ グラム陽性球菌・陰性球菌・グラム陰性通性 桿菌 など	講義	外部講師		
第 8 回		病原細菌の特徴と診断・治療② ・ カンピロバクター・抗酸菌・嫌気性菌・マ イコプラズマ・リケッチア・クラミジアなど	講義	外部講師		
第 9 回		病原真菌の特徴と診断・治療 ・ カンジダ など 病原原虫の特徴と診断・治療 ・ 赤痢アメーバ・腔トリコモナス ・ トキソプラズマ・ゴンディイ など「	講義	外部講師		
第 10 回		病原ウイルスの特徴と診断・治療 ・ DNA ウイルス・RNA ウイルス・プリオン	講義	外部講師		
第 11 回	感染予防対策	感染症の予防対策 ・ 滅菌と消毒・標準予防策 ・ ワクチンと予防接種	講義	外部講師		
第 12 回		院内感染とその特徴 ・ 市中感染と院内感染・日和見感染	講義	外部講師		
第 13 回		感染症への対策① ・ 感染症法及び関連する法律	講義	外部講師		
第 14 回		感染症への対策② ・ 院内感染防止対策	講義	外部講師		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	疾病と治療 I (疾病の診断過程と検査、回復を促進する治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 疾病の診断過程と検査を理解する。 2. 疾病の回復を促進する治療の原理を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	臨床検査	臨床検査の種類 検体の採取方法とその取り扱い方	講義	外部講師* (臨床検査技師)		
第 2 回		生理機能検査 超音波検査	講義	外部講師* (臨床検査技師)		
第 3 回	手術療法	手術療法の基礎	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		手術を受ける患者の準備	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		手術療法の合併症① ・術後出血・循環器合併症	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		手術療法の合併症② ・呼吸器合併症・消化器合併症・術後感染症	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回	内視鏡的治療	内視鏡的治療の目的と役割 内視鏡的治療・検査の種類① ・上部消化管内視鏡・大腸内視鏡	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		内視鏡的治療・検査の種類② ・内視鏡的逆行性膵胆管造影 ・超音波内視鏡 内視鏡的検査・治療の注意点	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回	麻酔治療	麻酔の種類 ・全身麻酔・局所麻酔 麻酔薬と適応	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		全身麻酔と生体反応 神経ブロック	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	放射線治療	放射線検査 人体に対する放射線の影響 放射線の性質と検査の種類	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		放射線治療 ・悪性腫瘍と放射線治療 ・放射線防御の基本と健康管理	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回	化学療法	化学療法とは 化学療法の種類と適応	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		化学療法の効果と副作用	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等 下記のように変更も可 例) 内視鏡 : 4 時間→2 時間 化学療法: 4 時間→2 時間 救急救命: 0 時間→4 時間					

## 授業計画

科目名	疾病と治療Ⅱ (呼吸器・循環器・腎泌尿器の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 呼吸器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 循環器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 腎泌尿器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態生理と症状① 感染症・気道疾患 など	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		呼吸器系疾患の病態生理と症状② 慢性閉塞性肺疾患 など	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		呼吸器系疾患の病態生理と症状③ 肺腫瘍 など	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		呼吸器系疾患を診断する検査 ・呼吸機能検査・気管支鏡・喀痰検査 ・ガス分析・胸腔穿刺・エックス線	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		呼吸器系疾患の治療・処置 ・酸素療法・機械的人工換気 ・肺理学療法・手術療法	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回	循環器系疾患	循環器系疾患の病態生理と症状① 虚血性心疾患	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		循環器系疾患の病態生理と症状② 心不全 など	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		循環器系疾患の病態生理と症状③ ・血圧異常・不整脈・弁膜症 など	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		循環器系疾患を診断する検査 ・心電図・心臓カテーテル法・心エコー ・血液検査	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		循環器系疾患の治療・処置 ・手術療法・経皮的冠動脈インターベンション・ペースメーカー埋込術・心臓リハビリテーション	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	腎疾患	腎疾患の病態生理と症状 ・腎炎・腎不全・腫瘍・結石 など	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		腎疾患の検査・治療 ・尿/血液検査・腎機能検査・画像検査 ・透析療法・腎移植 など	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回	泌尿器疾患	泌尿器疾患の病態生理と症状 ・前立腺肥大・前立腺がん・男性生殖器疾患 など	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		泌尿器疾患を検査・治療 ・尿検査・経尿道的内視鏡検査・ ・感染症治療・手術療法 など	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					



## 授業計画

科目名	疾病と治療Ⅲ (運動器・内分泌代謝・血液リンパ器の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 運動器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 内分泌代謝系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 血液リンパ器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	運動器系疾患	運動器系疾患の病態生理と症状① ・骨折・骨粗鬆症 など	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		運動器系疾患の病態生理と症状② ・椎間板ヘルニア・半月板損傷	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		運動器系疾患の病態生理と症状③ ・変形性膝関節症・変形性股関節症・慢性関節 リウマチ	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		運動器系疾患を診断する検査 ・X線撮影・造影検査・筋電図・知覚検査等	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		運動器系疾患の治療 ・手術療法・リハビリテーション・安静療法 (牽引、ギプス、装具等)	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回	内分泌代謝系疾 患	内分泌代謝系疾患の病態生理と症状① 内分泌疾患 (クッシング症候群、バセドウ氏病 など)	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		内分泌代謝系疾患の病態生理と症状② 代謝疾患(糖尿病)	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		内分泌代謝系疾患の病態生理と症状③ 代謝疾患(脂質異常症・肥満症)	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		内分泌代謝系疾患を診断する検査 血液検査 ホルモン負荷試験	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		内分泌代謝系疾患の治療・処置② ・薬物治療・食事療法・運動療法 ・外科治療 など	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	血液リンパ器系 の疾患	血液リンパ器系疾患の病態生理と症状① ・赤血球系の異常・白血球系の異常	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		血液リンパ器系の疾患病態生理と症状② ・悪性リンパ腫・出血性疾患	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		血液リンパ器疾患を診断する検査 ・骨髄穿刺・リンパ節生検・血液検査	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		血液リンパ器疾患の治療・処置 ・化学療法・造血幹細胞移植・輸血療法 ・遺伝子治療	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	疾病と治療IV (脳神経・消化器の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 脳神経系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 消化器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	脳神経系の疾患	脳神経系疾患（内科）の病態生理と症状① ・脳梗塞・認知症 など	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		脳神経系疾患（内科）の病態生理と症状② ・髄膜炎・脊髄小脳変性症・パーキンソン病など	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		脳神経系疾患（内科）の病態生理と症状③ ・ALS・筋無力症・筋ジストロフィ など	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		脳神経系疾患を診断する検査 ・血管造影・CT・MR・脳波	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		脳神経系疾患の治療 ・安静療法・リハビリテーション	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		脳神経系疾患（外科）の病態生理と症状・治療① ・脳出血・脳動脈瘤 など	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		脳神経系疾患（外科）の病態生理と症状・治療② ・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症（脳室ドレナージ） など	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回	消化器系の疾患	消化器疾患（内科）の病態生理と症状① ・食道がん・胃潰瘍・胃がん など	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		消化器疾患（内科）の病態生理と症状② ・胆石・肝炎・肝硬変・肝がん・膵炎 ・膵がん など	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		消化器疾患（内科）の病態生理と症状③ ・大腸がん・潰瘍性大腸炎・クローン病など	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回		消化器疾患（内科）を診断する検査 ・X線検査・血液検査・内視鏡検査・生検	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		消化器疾患（内科）の治療 ・化学療法・食事療法	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		消化器疾患（外科）の病態生理と症状・治療① ・食道がん・胃がん・胆石症・肝がん	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		消化器疾患（外科）の病態生理と症状・治療② ・大腸がん・イレウス・ヘルニア・痔核	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	疾病と治療V (自己免疫・精神・小児特有の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 自己免疫系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 精神特有の疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 小児特有の疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	自己免疫系疾患	自己免疫系疾患の病態生理と症状① 膠原病 (SLE・関節リウマチ など)	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		自己免疫系疾患の病態生理と症状② アレルギー疾患(気管支喘息、花粉症 など)	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		自己免疫系疾患を診断する検査 ・血液検査・組織検査	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		自己免疫系疾患の治療・処置 ・薬物療法・理学療法・手術療法	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回	精神の疾患	精神症状・障害① ・知覚の障害・知能の障害・気分/感情の障害 ・意思/欲動(行動)の障害	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		精神症状・障害② ・意識障害・自我意識障害・記憶の障害	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		精神疾患の診断基準 ・ICD-10・DSM-V	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		検査 ・脳波・画像診断・脳脊髄液検査・心理検査	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		精神疾患の診断と治療① ・統合失調症・気分障害・器質性精神障害 ・精神作用物質作用による精神/行動の異常	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		精神疾患の診断と治療② ・神経症性障害・ストレス関連障害・生理的障害 身体的要因に関連した行動症候群・小児・青年期の精神/心身医学的疾患・成人の人格/行動障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	小児に特有の疾患	病態生理と症状、検査、治療① ・ダウン症候群・18トリソミー・I型糖尿病 ・肥厚性幽門狭窄症・気管喘息・肺炎 など	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		病態生理と症状、検査、治療② ・ウイルス感染症・心室中隔欠損症 ・ネフローゼ症候群・川崎病・紫斑病 など	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		病態生理と症状、検査、治療③ ・急性リンパ性白血病・二分脊椎症 など	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		病態生理と症状、検査、治療③ 脳性まひ・先天性股関節脱臼・てんかんなど	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	疾病と治療VI (感覚器、女性生殖器、周産期の異常時の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 女性生殖器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 周産期に特有な疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	感覚器系疾患	眼科疾患の病態生理と症状・検査・治療① ・白内障・緑内障・網膜剥離・結膜炎・角膜炎 ・糖尿病性網膜症・近視・遠視・乱視・斜視 など	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		耳鼻科疾患の病態生理と症状・検査・治療① ・内耳炎/外耳炎/中耳炎・副鼻腔炎・扁桃炎など	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		耳鼻科疾患の病態生理と症状、検査、治療② ・上顎洞がん・メニエル・嗅覚障害 ・味覚障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		皮膚科疾患の病態生理と症状・検査・治療 ・湿疹・アトピー性皮膚炎・熱傷 など	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		口腔疾患の病態生理と症状、検査、治療 ・齲歯・歯周病・舌腫瘍・ヘルペス など	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回	女性生殖器系疾患	女性生殖器系疾患の病態生理と症状、検査、治療① ・子宮筋腫 ・子宮内膜症 など	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		女性生殖器系疾患の病態生理と症状、検査、治療② ・子宮がん・卵巣がん・卵巣のう腫 など	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		女性生殖器系疾患の病態生理と症状、検査、治療③ ・性感染症 ・不妊症 ・更年期障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回	乳房の疾患	乳房の疾患の病態生理と症状、検査、治療 ・乳腺炎・乳腺症・乳がん	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回	周産期医療特徴 と疾患	周産期医療システム ・母体搬送 ・新生児搬送 ・チーム医療 ・周産期医療ネットワーク	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回		ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療① ・妊娠悪阻 ・糖代謝異常妊娠 ・妊娠貧血 ・妊娠期の感染症 ・妊娠高血圧症候群	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療② ・妊娠持続期間の異常 ・不育症 ・流産/早産 ・異所性妊娠 ・前置胎盤	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療④ ・常位胎盤早期剥離・前期破水 ・分娩時異常出血・胎児機能不全 ・陣痛異常(微弱陣痛・過強陣痛)	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		産褥期の異常と治療 ・子宮復古不全 ・産褥熱 ・乳腺炎 ・産後精神障害 ・尿路感染/排尿障害	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	薬理学		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 薬物が人体に及ぼす影響と生体の反応について理解する。 2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響を理解する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	薬理学総論	薬理学の概要 体内情報伝達機構	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 2 回		薬の作用機序 薬物体内動態	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 3 回		薬理作用 薬効に影響を及ぼすもの	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 4 回	生体機能と薬物	中枢神経に作用する薬 末梢神経に作用する薬	講義	外部講師 (薬剤師)			
第 5 回		免疫・抗アレルギー薬	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 6 回		心臓・血液・血管系に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 7 回		呼吸器・消化器に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 8 回		物質代謝に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 9 回		抗感染薬	講義	外部講師 (薬剤師)			
第 10 回		抗悪性腫瘍薬	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 11 回		皮膚外用薬 漢方薬	講義	外部講師* (薬剤師)			
第 12 回		薬物治療	薬物療法の実際	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 13 回			薬物の取り扱いと保管方法 薬事法	講義	外部講師 (薬剤師)		
第 14 回	チーム医療と薬物治療		講義	外部講師* (薬剤師)			
第 15 回	評価						
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等		
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等						

## 授業計画

科目名	食事療法とリハビリテーション		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 食物が人間の健康に及ぼす影響と健康生活の維持・増進・健康障害の回復における食事療法を理解する。 2. リハビリテーションの概念と実際を理解し、看護の連携について考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	栄養と食事療法	日常生活と栄養	講義	外部講師* (栄養師)		
第 2 回		高齢者の栄養と食事	講義	外部講師* (栄養師)		
第 3 回		栄養サポートチーム	講義	外部講師* (栄養師)		
第 4 回		小児/妊産婦の栄養と食事	講義	外部講師* (栄養師)		
第 5 回		栄養代謝疾患患者の食事療法	講義	外部講師* (栄養師)		
第 6 回		腎臓疾患患者の食事療法	講義	外部講師* (栄養師)		
第 7 回		がん患者の食事療法	講義	外部講師* (栄養師)		
第 8 回	リハビリテーションの概念と実際	リハビリテーションの種類と目的 理学療法・作業療法・言語療法 など リハビリテーションの対象 チーム医療におけるリハビリテーション	講義	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 9 回		生活機能障害のアセスメント 日常生活動作・活動 (ADL) 運動系の評価 (ROM、MMT) 高次脳機能評価・セルフケアの評価 など	講義	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 10 回		リハビリテーションの実際① 運動系・感覚器系の障害 運動麻痺と機能訓練 など	講義	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 11 回		リハビリテーションの実際② 中枢神経系の障害 嚥下障害リハビリテーション など	講義	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 12 回		リハビリテーションの実際③ 呼吸器系・循環器系の障害 呼吸リハビリテーション	講義	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 13 回		リハビリテーションの実際④ 運動系の評価 (ROM、MMT) 関節拘縮訓練・筋力強化 移動動作介助 (松葉杖、歩行器 など)	校内 実習	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 14 回		リハビリテーションの実際⑤ ADL 自立への訓練・呼吸理学療法など	校内 実習	外部講師* (医師/理学療法士等)		
第 15 回		評価				
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポート等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	これからの医療		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	これまでの医療の流れ、医療の現状および医療行政を理解し、最前線の医療に目を向ける					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	医療の動向	医療の歴史 医療の現状と動向	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		医療制度改革と医療計画	講義	外部講師 (医師/行政担 当者)		
第 3 回		東京の医療行政	講義	外部講師* (医師/行政担 当者)		
第 4 回		看護行政と看護制度	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 5 回	医療の発展	科学技術の進歩と現代医療の最前線① A I 及び I C T を活用した医療と看護、移植医 療、遺伝子医療、再生医療など	講義 演習	外部講師 /専任教員		
第 6 回		科学技術の進歩と現代医療の最前線②	演習	外部講師 /専任教員		
第 7 回		科学技術の進歩と現代医療の最前線③	演習 まとめ	外部講師 /専任教員		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポー ト等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	公衆衛生		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や組織活動を理解するとともに医療専門職の役割を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	公衆衛生と健康	公衆衛生の概念 公衆衛生の歴史		講義	外部講師	
第 2 回		環境と公衆衛生		講義	外部講師	
第 3 回	保健対策の動向 と活動	公衆衛生の対象と活動		講義	外部講師	
第 4 回		疾病予防と疫学調査法		講義	外部講師	
第 5 回		疫学と健康に関する指標		講義	外部講師	
第 6 回		難病対策		講義	外部講師	
第 7 回		保健行政		講義	外部講師	
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					



## 授業計画

科目名	社会保障と社会福祉		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	社会保障と社会福祉の考え方の基本と諸制度を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	社会保障・社会福祉の理念と概要	社会保障の目的と機能	講義	外部講師		
第 2 回		社会福祉の定義と構造 社会福祉の理念と変遷	講義	外部講師		
第 3 回	生活と社会保険制度	社会保険の理念と変遷	講義	外部講師		
第 4 回		医療保険制度 診療報酬制度	講義	外部講師		
第 5 回		介護保険制度 介護報酬制度	講義	外部講師		
第 6 回		公的扶助 年金保険制度	講義	外部講師		
第 7 回	生活と社会福祉活動	社会福祉の援助対象とニーズ 高齢者福祉	講義	外部講師		
第 8 回		障害者福祉 児童家庭福祉	講義	外部講師		
第 9 回		社会福祉 6 法① ・生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法	講義	外部講師		
第 10 回		社会福祉 6 法② ・知的障害者福祉法・老人福祉法 ・母子及び父子並びに寡婦福祉法	講義	外部講師		
第 11 回		社会福祉行政	講義	外部講師		
第 12 回	保健医療福祉の連携	保健医療福祉の連携とマネジメント 地域包括ケアシステム 地域におけるヘルスプロモーション	講義	外部講師		
第 13 回		医療・看護・福祉の連携の実際①	講義 演習	外部講師		
第 14 回		医療・看護・福祉の連携の実際②	講義 演習	外部講師		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポート等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	医療と倫理		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	人間の基本的人権を理解し、医療現場における倫理的問題と現状と課題を考える					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	人権の理解	基本的人権の尊重 合理的配慮	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		ノーマライゼーション	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		自己決定権と患者の意思	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回	医療における倫 理的課題	生命倫理	講義 演習	外部講師* (医師)		
第 5 回		リビングウィル 自分らしく死ぬ権利	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		医療現場における倫理的課題①	講義 演習	外部講師* (医師)		
第 7 回		医療現場における倫理的課題②	講義 演習	外部講師* (医師)		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポー ト等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	医療と法律		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 健康支援や医療の提供に必要な法律を理解する。 2. 人間の生活を支えるための法律を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	法の知識と法令	法の概念	講義	外部講師		
第 2 回	看護活動と医療 関連法規	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	外部講師		
第 3 回		医療の提供に関連する法律 ・ 医師法 ・ 医療法	講義	外部講師		
第 4 回		疾病予防・健康増進に関連する法律 ・ 地域保健法 ・ 健康増進法 ・ 予防接種法	講義	外部講師		
第 5 回		医療保険に関連する法律 ・ 健康保健法 ・ 国民健康保険法 ・ 各共済法 ・ 介護保険	講義	外部講師		
第 6 回		生活を支える法 律	ライフサイクルに関連する法律 ・ 生活保護法 ・ 児童福祉法 ・ 精神保健福祉法 ・ 老人福祉法	講義	外部講師	
第 7 回	労働に関連する法律 ・ 労働基準法 ・ 労働安全衛生法 ・ 育児介護休業法 ・ 男女雇用機会均等法		講義	外部講師		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポー ト等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等 * 福祉に関する制度・法律は「社会保障と社会福祉」で学ぶ					

## 授業計画

科目名	医療と経済		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	経済が社会に与える影響を理解し、医療サービスを経済的側面から捉える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	生活と経済	経済が社会に与える影響	講義	外部講師		
第 2 回	診療と経済	医療経済の特殊性	講義	外部講師		
第 3 回		医療保険制度の概要	講義	外部講師		
第 4 回		診療報酬制度	講義	外部講師		
第 5 回	医療施設の経済	病院経営と看護管理	講義	外部講師		
第 6 回		訪問看護ステーション経営と看護管理	講義	外部講師		
第 7 回	経済と健康	経済発展と国民の健康水準	講義	外部講師		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書				評価 方法	筆記・レポート等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					